

(3) カリキュラムの編成

本学は、完成年度を迎えた平成3年度以降、数回のカリキュラム改正を行っているが、平成8年度の情報文化学科の新設を機に、急速な社会変化と新しい変革の動きに対応できる新たな経営情報学部を構築し、期待される近未来の人材要請に応え得るカリキュラムを再編成すべく、平成9年度には経営学科、情報学科のカリキュラムも改正し、学部全体の教育課程の改革を完成させている。

今後は、上記のカリキュラム改正において目指した各学年・各学科ごと、あるいは学部全体の教育目標の達成度等について、自ら調査・点検するシステムの検討が望まれる。

新学科を含めた1学部3学科体制下での、カリキュラムの概要、編成方針等は以下のとおりである。

a カリキュラムの概要

(経営学科)

情報化し、細分化されつつあるこれからの時代に相応できる生きた経営学を学習できるカリキュラムを編成している。

そのための方法として、以下の3点を取り上げている。

- ① 学生の経営学への興味を高めるため、学年の早い段階で学問の全体像を見渡せるようにし、学年進行とともにその詳細がわかるように科目配列を行っている。
- ② 将来、ゼネラリスト、スペシャリスト、または営業職等を目指す学生のいずれにも対応できる経営学プロパーの科目群をいくつか設け、各群の個々の科目については効果的な学年配当、必選区分等に配慮した科目配列を行っている。
- ③ 他の類似学科との差別化を図り、かつコンピュータ・マインドを持った学生を育成したい観点から、②の科目群とは別に情報処理関連科目群を設け、アップ・トゥ・デートな情報処理技術の基礎を修得できるように科目配列を行っている。

なお、科目群の構成を明らかにし、将来の進路に沿った科目選択について十分履修指導を行うことを前提に、履修コースの設定等は行っていない。

(情報学科)

新しい情報化時代の様々な分野で活用できる情報処理技術の修得を目指したカリキュラムを編成している。

そのための方法として、以下の3点を取り上げている。

- ① 学生に将来の進路を意識させた効果的な学習を施す観点から、従来からの履修モデルコースを発展させた2つの履修コースを設定し、各コースの特徴を明確に打ち出すための科目配列を行っている。
- ② コースに分かれた履修は2年次からとするが、各コースの個々の科目については、その理解を段階的に深められるよう効果的な学年配当、必選区分等に配慮した科目配列を行っている。
- ③ 学生の目的に沿った履修コース(縦糸)とは別に、学科本来の必要な科目が4年間で網羅されるよう科目を9つのカテゴリー(横糸)に分類し、過不足なきよう科目配列を行っている。

なお、この履修コースは、各コース別の履修を2年次からとしていることからわかるとおり、入試等を別に行ういわゆる専攻とは異なるものである。

(情報文化学科)

進展するマルチメディア関連技術の修得と、それらの進展が企業経営、国際社会、さらには文化の発展にどのように関与するのかについて学習できるカリキュラムを編成している。

そのための方法として、以下の3点を取り上げている。

- ① 科目によっては、実習機材を効果的に用いたスキルの修得とその応用に力点を置き、理論とスキルの両面を同時平行的に学習できるよう科目配当を行っている。特に、スキル系の科目については、小人数による授業の実施に配慮している。
- ② 現代社会の動向に敏感な感性を養うために、各年度ごとにアップ・トゥ・デートなテーマ設定が可能となる科目の配当や、実社会での体験的・経験的な学習を行う学外（企業）実習等の科目を配当している。
- ③ 情報学科同様に、学生の将来の進路に応じた効果的な学習が行えるよう、専攻科目のA群、B群を基礎にした履修コースを設定し、3年次からの専攻科目を効果的に学習できるように配慮している。

なお、この履修コースも、情報学科同様、入試等を別に行う専攻とは区別されるものである。

b カリキュラムの編成方針

(経営学科)

- ① 科目構成については、学部共通の方針に従い、基幹、専攻、演習の3階層構造としている。
- ② 科目配当にあたっては、1年次において総論的な科目を配置し、2年次においても引き続きより詳細な総論的科目を配置している。その上で、3・4年次においては各論的な科目を自分の将来の進路に沿った科目群から選択できるように配置している。科目群としては、「経営関連」「マーケティング関連」「会計関連」「経営環境関連」「情報処理関連」の5群である。
- ③ 具体的には、1・2年次に配当する総論的科目については、学生に知識の偏りが生じないように、また学問の全体像を理解させるために基幹科目として配置し、全て必修科目としている。
- ④ 2年次に配当するより詳細な総論的科目については、学生にとっての学び易さに配慮し、科目群ごとに専攻科目として配置するが、各科目群ごとの特徴を理解させるために、いくつかを選択必修科目としている。
- ⑤ 3年次以降に配当する各論的科目も、科目群ごとに専攻科目として配置するが、全て選択科目とし、学生の将来の進路に沿った幅広い科目選択を可能にしている。
- ⑥ 情報処理関連科目の内容としては、1年次にはワープロ、表計算、通信などのコンピュータ利用の基礎を学習し、2年次では高度な表計算、データベースの利用法、さらにはシステムアドミニストレータの資格取得にも配慮した内容としている。さらに、3年次においては、今後ますます盛んになるとと思われるUNIX、インターネットにも対応できる内容（HTML、LATEX等）としている。

なお、情報システムにも長けたゼネラリストを目指す学生のために、コンピュータ言語そのものに関する科目も引き続き配置している。

(情報学科)

- ① 科目構成については、学部共通の方針に従い、基幹、専攻、卒業研究の3階層構造としている。
- ② 科目数については、無闇な科目履修を避けた効率的な学習を可能にするため、学生の1週間の受講コマ数が15コマ程度となるよう各学年ごとの配当科目数を制限している。
- ③ 履修コースは、情報処理（E）コースと経営情報（U）コースの2コースとしている。前者は情報処理の基礎知識と技能を修得し、社会の様々な場面で発展的に活用できる能力を養うコース（システムエンジニア、研究者養成コース）、後者は同じく情報処理の

基礎知識と手法を身に付け企業の運営・管理に応用できる能力を養うコース（エンドユーザー、セールスエンジニア養成コース）としている。

- ④ 科目配列にあたっては、1年次においてE、Uコースとも「概論」や「基礎論」的な科目を基幹科目として配当し、いずれも必修科目としている。2年次からは各コースの「基礎論」的な科目をそれぞれのコースの専攻科目として配置し、選択必修科目または選択科目としている。その上で3・4年次の専攻科目には両コースとも応用科目を配置し、学生の希望に沿った幅広い履修が可能となるようすべて選択科目としている。
- ⑤ 履修にあたっては、各コースの目的や特徴を明確にする趣旨から、他学科に比べて卒業に必要な選択必修科目の単位数を増やすと同時に、選択科目の履修においても一定の条件（自群選択科目から12単位修得）を義務づけている。
- ⑥ 情報処理技術者試験の取得支援のため、2年次までに情報処理技術者第2種およびシステムアドミニストレータの受験を、3年次までに情報処理技術者第1種の受験が可能となるよう、各学年ごとに関連科目を効果的に配置している。
- ⑦ 学科本来の教育内容の過不足に留意するため、授業科目を「共通系」「数理系」「ソフトウェア系」「ハードウェア系」「ネットワーク系」「情報システム系」「知識処理系」「応用系」「特別系」の9つのカテゴリーに分類して配当している。

（情報文化学科）

- ① 科目構成については、学部共通の方針に従い、基幹、専攻、卒業演習の3階層構造としている。
- ② 履修コースは、AコースとBコースの2コースとしている。前者は企業等を取り巻く環境とその相互作用の側面について学習するコース、後者はマルチメディア関連技術の修得について学習するコースとしており、いずれも企業・組織体と社会とのコーディネーター的役割を担う能力の育成を目指すコースとしている。
- ③ 科目配列にあたっては、1年次においてA、Bコースとも「概論」や「基礎論」的な科目を基幹科目として配置し、いずれも必修科目としている。2年次においては以降のコース別履修の基礎となる「基礎論」的な科目を、専攻科目の必修選択科目または選択科目として配置している。その上で3・4年次の専攻科目には両コースとも応用科目を配置し、学生の希望に沿った幅広い履修が可能となるようすべて選択科目としている。
- ④ 履修にあたっては、コースの特徴を出しながらも自群に偏った履修を避ける配慮から、選択必修科目群および選択科目群のいずれにおいても、他コースから一定の単位（選択必修科目は4単位、選択科目は12単位）の修得を義務づけている。
- ⑤ 本学科が外国人留学生の受入れにも積極的な学科であることから、留学生の日本語導入教育にも配慮して、それに関連する科目をいくつか配置している。

c. カリキュラムの内容

平成8年度に新設された情報文化学科、平成9年度に大幅改定を行った経営学科、情報学科のカリキュラムの内容は以下のとおりである。

経営学科授業科目配当表

(平成10年10月現在)

授業科目の名称	配当年次	必選区分・単位			教員配置					備考	
		必修	選必	選択	教授	助教授	講師	兼任	非常勤		
基幹科目	経営学概論	1	4			◎					
	情報処理概論	1	2			○					
	情報処理概論演習	1	2				◎				
	情報文化論	1	4						○		
	簿記概論Ⅰ	1	4				◎				
	経営管理総論	2	4			◎					
	経営学特講	2	2			◎					
	小計		22								
専攻科目	日本経営史	2		4							○
	経営組織論	2		4				○			
	人事管理論	3・4			4						○
	組織行動論	3・4			4	○					
	国際経営論	3・4			4						○
	企業文化論	3・4			2						○
	中小企業論	3・4			4						○
	ベンチャービジネス論	3・4			2						○
	経営工学	3・4			2						○
	研究開発論	3・4			2						○
計			8	24							
マーケティング関連科目群	マーケティング論	2		4		○					
	流通総論	2		4		○					
	マーケティング戦略論	3・4			2	○					
	広告コミュニケーション論	3・4			2	○					
	交通論	3・4			2	○					
	物流管理論	3・4			2	○					
計			8	8							
会計関連科目群	財務会計論Ⅰ	2		4		◎					
	経営分析論	2		4				○			
	簿記概論Ⅱ	2			2						○
	管理会計論	3・4			2			○			
	財務会計論Ⅱ	3・4			4						○
	財務管理論	3・4			4						○
	原価計算論	3・4			4			○			
	コンピュータ会計	3・4			4						○
計			8	20							
経営環境関連科目群	契約法	2			4	○					
	環境管理論	2			2	○					
	経済学a	2			2						
	経営環境論	3・4			2						○
	日本産業史	3・4			4						○
	産業社会学	3・4			4				○		
	担保法	3・4			2	○					
	損害賠償法	3・4			2	○					
	商法	3・4			4						○
	情報関係法規	3・4			2						○
	経済学b	3・4			2						○
	金融論	3・4			4						○
	国際関係論	3・4			4						○
	情報産業論	3・4			2				○		
社会心理学	3・4			4	○						

授業科目の名称	配当年次	必選区分・単位			教員配置					備考	
		必修	選必	選択	教授	助教授	講師	兼任	非常勤		
専攻科目	社会調査法	3・4			4					○	
	ビジ初英語	3・4			4	○					
	計				52						
経営情報関係連科目群	プログラム言語 a	2			4					○	
	オフィス情報処理 a	2			4	○					
	情報処理論 I	2			2					○	
	情報処理論 II	2			2					○	
	経営統計学 I	2			2	○					
	経営統計学 II	2			2	○					
	プログラム言語 b	3・4			4					○	
	オフィス情報処理 b	3・4			4		○				
	システム開発論	3・4			4						○
	経営情報システム論	3・4			4	○					
	オペレーション・サチ	3・4			2						○
	品質管理論	3・4			2	○					
	システム監査論 I	3・4			2					○	
	システム監査論 II	3・4			2					○	
	計				40						
	小計			24	144						
演習	3・4	8				◎					
合計		30	24	144							

(卒業要件)

卒業要件単位を、共通基礎科目から30単位以上、基幹科目22単位、専攻科目から64単位以上、演習8単位の合計124単位以上とする。その内訳は以下のとおり。

共通基礎科目				基幹科目	専攻科目	演習	合計		
情報処理	総合基礎	語学	健康科学						
(必修) 2	(選択) 16	(必修) 8	(選択) 0	(必修) 4	(必修) 22	(選必) 16	(選択) 48	(必修) 8	124

(履修上の注意事項)

- ①○○Ⅰ・Ⅱの科目はステップ履修科目であり、ステップⅠを取得していない場合は、ステップⅡを履修することができない科目。
- ②次の科目はセット履修科目であり、必ず講義と演習をセットで履修し、単位を取得しなければならない科目。(講義と演習の組み合わせが成立しないと卒業要件単位として認定されない科目)
・情報処理概論と同演習
- ③○○a・bの科目は、両方の単位取得が望ましい科目。

(注) 1 「教員配置」欄の1・2年次配当科目は平成10年度の実績を、3年次以降の配当科目は予定を表す。
2 「教員配置」欄の○は担当者が1名の場合を、◎は複数のクラス分けを実施している場合の主担当者を表す。

経営学科授業科目構成図

	区 分	経営学プロパーの科目群	情報処理関連科目群						
一 年 次	基幹科目	◎経営学概論④ ◎簿記概論Ⅰ④ ◎情報文化論④ 3科目 12単位	◎情報処理概論② ◎情報処理概論演習② 2科目 4単位						
	二年次	◎経営管理総論④ ◎経営学特講② 2科目 6単位							
三・ 四 年 次	専攻科目	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <th style="width: 33%;">経営関連科目</th> <th style="width: 33%;">マーケティング 関連科目</th> <th style="width: 33%;">会計関連科目</th> </tr> <tr> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> ○日本経営史④ ○経営組織論④ 2科目 8単位 </td> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> ○マーケティング論④ ○流通総論④ 2科目 8単位 </td> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> ○財務会計論Ⅰ④ ○経営分析論④ 簿記概論Ⅱ② 3科目 10単位 </td> </tr> </table>	経営関連科目	マーケティング 関連科目	会計関連科目	○日本経営史④ ○経営組織論④ 2科目 8単位	○マーケティング論④ ○流通総論④ 2科目 8単位	○財務会計論Ⅰ④ ○経営分析論④ 簿記概論Ⅱ② 3科目 10単位	プログラム言語a④ オフィス情報処理a④ 情報処理論Ⅰ② 情報処理論Ⅱ② 経営統計学Ⅰ② 経営統計学Ⅱ② 6科目 16単位
	経営関連科目	マーケティング 関連科目	会計関連科目						
	○日本経営史④ ○経営組織論④ 2科目 8単位	○マーケティング論④ ○流通総論④ 2科目 8単位	○財務会計論Ⅰ④ ○経営分析論④ 簿記概論Ⅱ② 3科目 10単位						
経営環境関連科目	契約法④ 環境管理論② 経済学a② 3科目 8単位								
<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <th style="width: 33%;">経営関連科目</th> <th style="width: 33%;">マーケティング 関連科目</th> <th style="width: 33%;">会計関連科目</th> </tr> <tr> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> 人事管理論④ 組織行動論④ 国際経営論④ 企業文化論② 中小企業論④ ベンチャービジネス論② 経営工学② 研究開発論② 8科目 24単位 </td> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> マーケティング戦略論② 広告コミュニケーション論② 交通論② 物流管理論② 4科目 8単位 </td> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> 財務会計論Ⅱ④ 管理会計論② 財務管理論④ コンピュータ会計④ 原価計算論④ 5科目 18単位 </td> </tr> </table>	経営関連科目	マーケティング 関連科目	会計関連科目	人事管理論④ 組織行動論④ 国際経営論④ 企業文化論② 中小企業論④ ベンチャービジネス論② 経営工学② 研究開発論② 8科目 24単位	マーケティング戦略論② 広告コミュニケーション論② 交通論② 物流管理論② 4科目 8単位	財務会計論Ⅱ④ 管理会計論② 財務管理論④ コンピュータ会計④ 原価計算論④ 5科目 18単位	プログラム言語b④ オフィス情報処理b④ システム開発論④ 経営情報システム論④ オペレーション・リサーチ② 品質管理論② システム監査論Ⅰ② システム監査論Ⅱ② 8科目 24単位		
経営関連科目	マーケティング 関連科目	会計関連科目							
人事管理論④ 組織行動論④ 国際経営論④ 企業文化論② 中小企業論④ ベンチャービジネス論② 経営工学② 研究開発論② 8科目 24単位	マーケティング戦略論② 広告コミュニケーション論② 交通論② 物流管理論② 4科目 8単位	財務会計論Ⅱ④ 管理会計論② 財務管理論④ コンピュータ会計④ 原価計算論④ 5科目 18単位							
経営環境関連科目	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 33%; border: 1px solid black; padding: 2px;"> 経営環境論② 日本産業史④ 産業社会学④ 担保法② 損害賠償法② 商法④ </td> <td style="width: 33%; border: 1px solid black; padding: 2px;"> 情報関係法規② 経済学b② 金融論④ 国際関係論④ 情報産業論② 社会心理学④ </td> <td style="width: 33%; border: 1px solid black; padding: 2px;"> 社会調査法④ ビジネス英語④ </td> </tr> </table> 14科目 44単位		経営環境論② 日本産業史④ 産業社会学④ 担保法② 損害賠償法② 商法④	情報関係法規② 経済学b② 金融論④ 国際関係論④ 情報産業論② 社会心理学④	社会調査法④ ビジネス英語④				
経営環境論② 日本産業史④ 産業社会学④ 担保法② 損害賠償法② 商法④	情報関係法規② 経済学b② 金融論④ 国際関係論④ 情報産業論② 社会心理学④	社会調査法④ ビジネス英語④							
演 習	◎演習⑧ 1科目 8単位								
			合計 63科目 198単位						

◎：必修科目 ○：選択必修科目 無印：選択科目

(卒業要件)

卒業要件単位を、共通基礎科目から30単位以上、基幹科目22単位、専攻科目から64単位以上、演習8単位の合計124単位以上とする。
その内訳は以下のとおり。

共通基礎科目					基幹科目	専攻科目		演習	合 計
情報処理	総合基礎	語 学		健康科学		(必修)	(選択)		
(必修) 2	(選択) 16	(必修) 8	(選択) 0	(必修) 4	(必修) 22			(選択) 16	(選択) 48

(履修上の注意事項)

- ①○○Ⅰ・Ⅱの科目はステップ履修科目であり、ステップⅠを取得していない場合は、ステップⅡを履修することができない科目。
- ②次の科目はセット履修科目であり、必ず講義と演習をセットで履修し、単位を取得しなければならない科目。(講義と演習の組み合わせが成立しないと卒業要件単位として認定されない科目)
・情報処理概論と同演習
- ③○○a・bの科目は、両方の単位取得が望ましい科目。

情報学科授業科目配当表

(平成10年10月現在)

授業科目の名称		配当年次	必修区分・単位数			教員配置					備考
			必修	選必	選択	教授	助教授	講師	兼任	非常勤	
基幹科目	経営学概論	1	4						○		
	情報処理概論	1	4			○					
	情報処理概論演習	1	2			◎					
	情報文化論	1	4						○		
	経営情報論	1	2						○		
	計算機入門概論	1	4			○					
	情報学特講a	2	2					◎			
	小計		22								
専攻科目	ソフトウェア基礎a	2		4					○		
	ソフトウェア基礎a演習	2		2					○		
	計算機7-キリキ I	2		2					○		
	計算機7-キリキ II	2		2					○		
	情報通信システム論a	2		2					○		
	ソフトウェア基礎b	3・4			4				○		
	情報通信システム論b	3・4			2	○					○
	情報通信網	3・4			2						○
	システム設計論c	3・4			2	○					
	ソフトウェア工学II	3・4			2	○					
	システム監査論I	3・4			2	○					
	システム監査論II	3・4			2	○					
	情報理論I	3・4			2				○		
	情報理論II	3・4			2				○		
計			12	20							
経営情報関連科目群	プロシ言語a	2		4					○		
	プロシ言語a演習	2		2					◎		
	情報処理理論I	2		2		○					
	情報処理理論II	2		2		○					
	プレゼンテーション論	2		2						○	
	プロシ言語b	3・4			4				○		
	簿記概論II	3・4			2				○		
	経営工学	3・4			2						○
	契約法	3・4			4				○		
	品質管理論	3・4			2				○		
	プレゼンテーション論演習	3・4			2				○		
産業社会学	3・4			4				○			
計			12	20							
共通科目群	システム設計論a	2		2							○
	システム設計論b	2		2							○
	情報通信概論	2		2		○					
	情報数学a	2			2				○		
	情報数学b	2			2				○		
	統計処理論	2			2	○					
	確率論	2			2	○					
	データベース概論	2			2					○	
	マルチメディア論I	2			2					○	
	情報処理特講a	2			2						
	情報処理特講b	2			2						
	簿記概論I	2			4				○		
	流通総論	2			4				○		
	財務会計論	2			4				○		
	マーケティング論	2			4				○		
	情報学特講b	3・4			2	○					

専攻科目	共通科目群	授業科目の名称	配当年次	必修区分・単位数			教員配置					備考
				必修	選必	選択	教授	助教授	講師	兼任	非常勤	
		情報数学c	3・4			2			○			
		情報数学d	3・4			2		○				
		数値計算法	3・4			2			○			
		ソフトウェア工学I	3・4			2	○					
		データベース管理システム	3・4			4		○				
		マルチメディア論II	3・4			2				○		
		情報キャリア論	3・4			2	○					
		情報関係法規	3・4			2					○	
		パレゾフ・サチ I	3・4			2					○	
		パレゾフ・サチ II	3・4			2					○	
		情報産業論	3・4			2	○					
		ロボット情報論	3・4			2		○				
		環境情報論	3・4			2	○					
		環境情報処理	3・4			2	○					
		CAD/CAM 法	3・4			4			○			
		医療情報論 I	3・4			2	○					
		医療情報論 II	3・4			2	○					
		応用プログラミング	3・4			2			○			
		画像情報論	3・4			2					○	
		画像情報処理	3・4			2					○	
		知能科学 a	3・4			2			○			
		知能科学 b	3・4			2	○					
		人工知能論 I	3・4			2			○			
		人工知能論 II	3・4			2			○			
		情報数理 a	3・4			2			○			
		情報数理 b	3・4			2		○				
		音響情報論	3・4			2				○		
		音響情報処理	3・4			2	○					
		情報システム実習	3・4			2		◎				
		計				96						
		小計				136						
卒業研究		卒業研究	3・4	8			◎					
合計				30	30	136						

(卒業要件)

卒業要件単位を、共通基礎科目から30単位以上、基礎科目22単位、専攻科目から64単位以上、卒業研究8単位の合計124単位以上とする。その内訳は以下のとおり。

共通基礎科目					基礎科目	専攻科目		卒業研究	合計
情報処理	総合基礎	語学	健康科学	情報処理		総合基礎			
(必修) 2	(選択) 16	(必修) 8	(選択) 0	(必修) 4	(必修) 22	(選必) 18	(選択) 46	(必修) 8	124

※専攻科目の履修においては、E群またはJ群を選択し、かつ選択必修科目については自群から12単位、共通群または他群から6単位の合計18単位を、また、選択科目については自群から12単位を必ず取得しなければならない。

(注1)

選択必修科目30単位のうち、卒業要件とされる18単位を超えて取得した単位は、他群の選択科目として卒業要件単位として加算する。

(注2)

2～4年次までに配当されている選択科目136単位に対して、卒業要件を46単位とし、うち12単位を自群から取得することになる。

(履修上の注意事項)

- ①○○I・IIの科目はステップ履修科目であり、ステップIを取得していない場合は、ステップIIを履修することができない科目
- ②以下の科目はセット履修科目であり、必ず講義と演習をセットで履修し、単位を取得しなければならない科目。(講義と演習の組み合わせが成立しないと卒業要件単位として認定されない科目)
 - ・情報処理概論と同演習
 - ・ソフトウェア基礎aと同演習
 - ・プログラム言語aと同演習
- ③○○a・b・c・dの科目は、すべての単位取得が望ましい科目。

- (注) 1 「教員配置」欄の1・2年次配当科目は平成10年度の実績を、3年次以降の配当科目は予定を表す。
2 「教員配置」欄の○は担当者が1名の場合を、◎は複数のクラス分けを実施している場合の主担当者を表す。

情報学科授業科目構成図

区分

情報処理 (E) コース

経営情報 (U) コース

一年次	基幹科目	◎経営学概論④ ◎情報処理概論④ ◎情報処理概論演習② ◎情報文化論④ ◎経営情報論② ◎計算機システム概論④	6科目 20単位	
	二年次	◎情報学特講 a②	1科目 2単位	
二年次	専攻科目	◎ソフトウェア基礎 a④ ◎ソフトウェア基礎 a演習② ◎計算機アーキテクチャ I② ◎計算機アーキテクチャ II② ◎情報通信システム論 a②	5科目 12単位	
		○プログラム言語 a④ ○プログラム言語 a演習② ○情報処理論 I② ○情報処理論 II② ○プレゼンテーション論②	5科目 12単位	
三・四年次	共通科目群			
	○システム設計論 a② ○システム設計論 b② ○情報通信概論② 情報数学 a② 情報数学 b②	統計処理論② 確率論② データベース概論② マルチメディア論 I② 情報処理特講 a②	情報処理特講 b② 簿記概論 I④ 流通総論④ 財務会計論④ マーケティング論④	14科目 38単位
	ソフトウェア基礎 b④ 情報通信システム論 b② 情報通信網② システム設計論 c② ソフトウェア工学 II② システム監査論 I②	システム監査論 II② 情報理論 I② 情報理論 II②	プログラム言語 b④ 簿記概論 II② 経営工学② 契約法④ 品質管理論② プレゼンテーション論演習②	7科目 20単位
三・四年次	共通科目群			
	情報学特講 b② 情報数学 c② 情報数学 d② 数値計算法② ソフトウェア工学 I② データベース管理システム④ マルチメディア論 II② 情報セキュリティ論②	情報関係法規② パフォーマンス・リサーチ I② パフォーマンス・リサーチ II② 情報産業論② スポーツ情報論② 環境情報論② 環境情報処理② CAD/CAM 法④	医療情報論 I② 医療情報論 II② 応用プログラミング② 画像情報論② 画像情報処理② 知識科学 a② 知識科学 b② 人工知能論 I②	人工知能論 II② 情報数理 a② 情報数理 b② 音響情報論② 音響情報処理② 情報システム実習②
卒業研究	◎卒業研究⑧		1科目 8単位	

合計 79科目 196単位

◎：必修科目 ○：選択必修科目 無印：選択科目

(卒業要件)

卒業要件単位を、共通基礎科目から30単位以上、基幹科目22単位、専攻科目から64単位以上、卒業研究8単位の合計124単位以上とする。

その内訳は以下のとおり。

共通基礎科目					基幹科目	専攻科目		卒業研究	合計
情報処理	総合基礎	語学		健康科学		(必修)	(選択)		
(必修) 2	(選択) 16	(必修) 8	(選択) 0	(必修) 4	(必修) 22			(選必) 18	(選択) 46

※専攻科目の履修においては、E群またはU群を選択し、かつ選択必修科目については自群から12単位、共通群または他群から6単位の合計18単位を、また、選択科目については自群から12単位を必ず取得しなければならない。(なお、選択必修科目30単位のうち、卒業要件とされる18単位を超えて取得した単位は、他群の選択科目として卒業要件単位としてカウントする)

(履修上の注意事項)

- ①○○I・IIの科目はステップ履修科目であり、ステップIを取得していない場合は、ステップIIを履修することができない科目。
- ②以下の科目はセット履修科目であり、必ず講義と演習をセットで履修し、単位を取得しなければならない科目。(講義と演習の組み合わせが成立しないと卒業要件単位として認定されない科目)
 - ・情報処理概論と同演習
 - ・ソフトウェア基礎 aと同演習
 - ・プログラム言語 aと同演習
- ③○○a・b・c・dの科目は、すべての単位取得が望ましい科目。

情報文化学科授業科目配当表

(平成10年10月現在)

授業科目の名称	配当年次	必選区分・単位数			教員配置					備考	
		必修	選必	選択	教授	助教授	講師	兼任	非常勤		
基幹科目	情報文化論	1	4			○					
	経営学概論	1	4					○			
	情報処理概論	1	2			○					
	情報処理概論演習	1	2			○					
	現代社会論	2	4				○				
	企業経済論	2	4					○			
	映像コミュニケーション論	2	4					○			
小計			24								
専攻科目	A群	産業社会学	2	4			○				
		国際関係論	2	4			○				
		社会調査法	2	4			○				
		企業文化論	2		2					○	
		経営環境論	2		2					○	
		国際経営論	2		4					○	
		マスメディア論	3・4		4		○				
		マスメディア史	3・4		2			○			
		放送論	3・4		4		○				
		ジャーナリズム論	3・4		2		○				
		編集論	3・4		2		○				
		比較社会論	3・4		4			○			
		国際コミュニケーション論	3・4		2					○	
		国際交流論	3・4		4					○	
		国際協力論	3・4		4		○				
		NGO論	3・4		2					○	
		多国籍企業論	3・4		2					○	
		経済開発論	3・4		2					○	
		アジア経済事情	3・4		2					○	
		コンピュータ論	3・4		4					○	
	地域経済論	3・4		2			○				
	地域福祉論	3・4		2					○		
	情報産業論	3・4		2					○		
	著作権法	3・4		2					○		
計				12	56						
B群		メディアイ論I	2	2			○				
		メディアイ論I演習	2	2			○				
		映像表現論I	2	2			○				
		映像表現論I演習	2	2			○				
		プレゼンテーション論	2	2			○				
		プレゼンテーション論演習	2	2			○				
		メディアイ機器論	2		4					○	
		感覚心理学a	2		2		○				
		感覚心理学b	2		2					○	
		メディアイ論II	3・4		2		○				
		メディアイ論II演習	3・4		2		○				
		映像表現論II	3・4		2					○	
		映像表現論II演習	3・4		2					○	
		データベース情報論	3・4		4		○				
		情報通信論	3・4		4				○		
		画像情報論	3・4		2		○				
		画像情報処理	3・4		2		○				
	音響情報論	3・4		2		○					
	音響情報処理	3・4		2					○		

授業科目の名称	配当年次	必選区分・単位数			教員配置					備考	
		必修	選必	選択	教授	助教授	講師	兼担	非常勤		
専攻科目	B群	映像コミュニケーションa	3・4			2					○
		映像コミュニケーションb	3・4			2	○				
		環境情報論	3・4			2			○		
		情報技術史	3・4			2		○			
	計				12						
	対外社会実習	3・4			2	◎					
	情報文化特別講義	3・4			2	○					
	日本語演習	3・4			2						○
	計				6						
	小計				24						
卒業演習	3～4	8			◎						
合計		32	24	102							

(卒業要件単位)

卒業要件単位を、共通基礎科目から34単位以上、基幹科目24単位、専攻科目から58単位以上、卒業演習8単位の合計124単位以上とする。その内訳は以下のとおり。

共通基礎科目					基幹科目	専攻科目		卒業演習	合計
情報処理	総合基礎	語学		健康科学		(必修)	(選択)		
(必修) 2	(選択) 16	(必修) 8	(選択) 4	(必修) 4	(必修) 24	(選択) 12	(選択) 46	(必修) 8	124

※専攻科目の履修においては、A群またはB群のいずれかを選択し、かつ選択必修科目については他群から必ず4単位を、選択科目については他群から必ず12単位を取得しなければならぬ。

(注) 1 「教員配置」欄は、平成10年度の実績を表す。

2 「教員配置」欄の○は担当者が1名の場合を、◎は複数のクラス分けを実施している場合の主担当者を表す。

情報文化学科授業科目構成図

	区 分	情報文化 (A 群科目) コース 【企業内外の環境変化と相互作用の考察】	マルチメディア (B 群科目) コース 【マルチメディア 関連分野の理論と実践の修得】
一 年 次	基幹科目	◎情報文化論④ ◎経営学概論④ ◎情報処理概論② ◎情報処理概論演習② 4 科目 12 単位	
	二年次	◎現代社会論④ ◎企業経済論④ ◎映像コミュニケーション論④ 3 科目 12 単位	
三 ・ 四 年 次	専攻科目	○産業社会学④ ○国際関係論④ ○社会調査法④ 企業文化論② 経営環境論② 国際経営論④ 6 科目 20 単位	○マルチメディア論 I ② マルチメディア 機器論 ④ ○マルチメディア論 I 演習② 感覚心理学 a ② ○映像表現論 I ② 感覚心理学 b ② ○映像表現論 I 演習② ○プレゼンテーション論② ○プレゼンテーション論演習② 9 科目 20 単位
	卒業演習	マスコミュニケーション論④ NGO 論② マスコミュニケーション史② 多国籍企業論② 放送論④ 経済開発論② ジャーナリズム論② アジア経済事情② 編集論② コミュニティ論④ 比較社会論④ 地域経済論② 国際コミュニケーション論② 地域福祉論② 国際交流論④ 情報産業論② 国際協力論④ 著作権法② 18 科目 48 単位	マルチメディア論 II ② 音響情報処理② マルチメディア論 II 演習② 映像コミュニケーション a ② 映像表現論 II ② 映像コミュニケーション b ② 映像表現論 II 演習② 環境情報論② データベース情報論④ 情報技術史② 情報通信論④ 画像情報論② 画像情報処理② 音響情報論② 14 科目 32 単位
		共通 (A・B 群共通) 科目群	
		マルチメディア社会実習② 情報文化特別講義② 日本語演習② (※) 3 科目 6 単位	
		◎卒業演習⑧ 1 科目 8 単位	
合計 58 科目 158 単位			

◎：必修科目 ○：選択必修科目 無印：選択科目 (※)：外国人留学生対象科目 丸数字：単位数

(卒業要件)

卒業要件単位を、共通基礎科目から 3 4 単位以上、基幹科目 2 4 単位、専攻科目から 5 8 単位以上、卒業演習 8 単位の合計 1 2 4 単位以上とする。
その内訳は以下のとおり。

共 通 基 礎 科 目					基幹科目	専攻科目		卒業研究	合 計
情報処理	総合基礎	語 学		健康科学		(選必)	(選択)		
(必修) 2	(選択) 1 6	(必修) 8	(選択) 4	(必修) 4	(必修) 2 4			(選必) 1 2	(選択) 4 6

※専攻科目の履修においては、A 群または B 群のいずれかを自群として選択し、かつ選択必修科目については 4 単位を、選択科目については 1 2 単位を他群から必ず取得しなければならない。なお、A・B 群共通科目は、自群の選択科目とする。

※専攻科目の選択必修科目の履修においては、いずれの群を選択した場合も、1 2 単位を超えて履修することはできない。

(履修上の注意事項)

①○○I・II の科目はステップ履修科目であり、ステップ I を取得していない場合は、ステップ II を履修することができない科目。

②以下の科目はセット履修科目であり、必ず講義と演習をセットで履修し、単位を取得しなければならない科目。(講義と演習の組み合わせが成立しないと卒業要件単位として認定されない科目)

- ・情報処理概論と同演習 ・マルチメディア論 I, II と同各演習 ・映像表現論 I, II と同各演習
- ・プレゼンテーション論と同演習

③○○a・b の科目は、すべての単位取得が望ましい科目。